

## 視度調整



### 目的

屈折異常の微調整をして、ピント合わせが必要な検査の誤差の最小化

準備物 白い紙

電源スイッチをONにする

視度環を左に充分まわし、  
接眼レンズを引き出す



微調整でしかないので、  
検者は屈折矯正しておくこと。  
(特に乱視)

対象レンズ筒に必要な場合は白い紙を保持し、  
両眼開放にて接眼レンズをのぞき目盛線が  
最も鮮明に見えるまで視度環を $+$ → $-$ へ少し  
ずつまわし、鮮明になったらすぐに止めること  
を何回か繰り返して無調節位置に合わせる



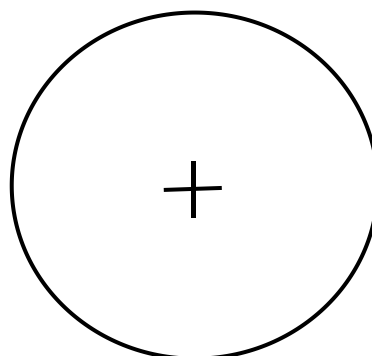
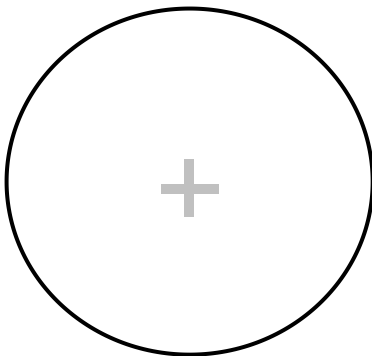
最初は目標のみ見ることから始め、  
両眼を開眼して、他眼は数字などの記載ができ  
るようになる練習をすること。

目盛がある場合視度環の数字を覚えておく



次回からの視度調整を省く為だよ！

例) ケラト(オフサルモ)メーター



ピントがあった状態